



Advance

令和3年11月10日
尾道市立高西中学校
研究推進部

先日（10月27日、29日）の研究授業、本当にお疲れさまでした。大変多忙な中、準備をしてくださった田中先生、中畑先生、山根先生、緒方先生、また、多くの建設的な意見を出してくださったみなさまのおかげで、新たな授業改善の視点を得ることができました。今回の研究授業の要点をまとめます。

生徒の発言をどう生かすか

授業の中で生徒が課題の解決に対する、ヒントとなることをつぶやくことがあります。私たち教師はどんな対応をするでしょうか。

- ① 気づかない ② 触れずに進む ③ 「そうだね」など一言返答して、次の話に進む。
- ④ 生徒がつぶやいたことについて、教師が補足説明をする。

- ① を防ぐために、教師自身がアンテナを張り、生徒の声を「聴く」「拾う」力を身に付ける必要があります。
- ② や ③ は、教師に自分の思い描いた授業の進み方があるために起こってしまいがちです。
- ④ は、生徒の発言をクラス全体に共有して新たな学びの視点を与えようとしています。

さらに「生徒の意見」で課題解決に向かうという意識を高めるために

- ◎ 生徒のつぶやきを、「生徒自身」に説明させることで、クラス全体に共有する。

という手法も有効だと考えられます。

生徒の学びの『ファシリテーター』として、生徒の声をどう拾い、どう広げ、深めていくか追究していきましょう。

教頭先生のあいさつより

近年、授業スタイルの定着が進み、中学校の生徒は落ち着いて学習しているが、教師も淡々と進めてしまっている部分もある。「ここに気づかせたい!」「これができるようになってほしい」という、強い熱意をもって、生徒が生き生きと学べる工夫を追究してほしい。

校長先生のあいさつより

- ・生徒の期待のまなざしに答える授業を目指してほしい。
- ・「めあて」と「まとめ」の整合性 ⇒ 一貫して「これを身に付けさせる」というものを持つ。
- ・生徒のノートに評価を与える ⇒ 机間指導の際、良い部分に線や印をつけてあげる手法も
- ・評価には、「記録に残す評価」と次時からの「指導に生かす評価」がある。どちらも指導案に書くようにする。
- ・指示（伝える）なのか、指導（教え込む）なのか、発問（考えさせる）なのか、状況に応じて意図をもって使い分ける必要がある。
- ・活動や、話し合いを行う際は、やらせっぱなしにならないよう、評価基準をあらかじめ明確にし、評価を生徒に返すことが必要である。

3年 社会



2年 体育



1年 英語



3年 社会 題材名「個人の尊重と日本国憲法～人権の対立をどう説明する～」 : 田中教諭

成果		課題と改善策
生徒の主体性を引き出す工夫	<ul style="list-style-type: none"> 賛否の立場を明確にする課題設定, 実在した興味深い事例を題材にしたことで生徒の主体性を引き出していた。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒から出た発言を課題解決のヒントにする。 立場を決めたあとに, 葛藤が起こるような発問を工夫する。
対話的な学び合いを実現する工夫	<ul style="list-style-type: none"> ネームカードを効果的に使い, 思考の可視化ができた。 生徒が自分の考えをしっかりとらえていた。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒同士の意見交流を行い, 考えを広げる場が設定できたらよい。 低学力の生徒に対して, 重要な視点を焦点化した資料づくりの工夫もできる。 生徒のつぶやきをとらえ, 生徒に具体的に説明させる時間をとる。
学びの深まりを実感するための工夫		<ul style="list-style-type: none"> 板書が取りやすいような黒板の使い方や説明をする。

2年 体育 題材名「バレーボール～つながる楽しさを味わう～」 : 中畑教諭

成果		課題と改善策
生徒の主体性を引き出す工夫	<ul style="list-style-type: none"> 教師が専門性を生かし, 生徒に模範を示していた。 ⇒ 生徒の「やってみよう」を引き出す。 教師の前向きな声掛けがやる気を引き出していた。 	<ul style="list-style-type: none"> 模範に対して, 生徒からでた感想をとらえて学習につなげていきたい。
対話的な学び合いを実現する工夫	<ul style="list-style-type: none"> 生徒同士の教えあいが見られた。 自分たちで作戦を立てることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 「10回ラリーを続ける」のような大まかな活動の指示ではなく「～回パスをつないで返球する」のようにねらいを達成するために行わせたい課題を焦点化する。 作戦を実行できたか自己評価と相互評価, 教師からの評価を行う。
学びの深まりを実感するための工夫		<ul style="list-style-type: none"> ルールをしっかりと理解させ, 知識を基盤として技能を磨く 思考の時間を効率的に行い, 活動の中で体得する時間を増やす。

1年 英語 題材名「Unit8 A Surprise Party 現在の状況を相手に説明するにはどうすればいいか」 : 山根教諭

成果		課題と改善策
生徒の主体性を引き出す工夫	<ul style="list-style-type: none"> 体を動かしながら楽しく学習できた。 ICT (動画や音声, スライド) に生徒が食いついていた。 	<ul style="list-style-type: none"> 英語の聞き取り, 発話が少なかった。 ⇒ 多くの英語に触れ, 慣れさせる。 ⇒ アウトプットの機会を増やす。
対話的な学び合いを実現する工夫	<ul style="list-style-type: none"> ジェスチャーを通して何とか伝えようとする姿勢が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒同士の会話だけでなく, 英会話の模範となる教師との対話の機会も設定する。 教師が説明する部分, 生徒に考えさせる部分を吟味する。

1年 体育 題材名 「バレーボール (球技・ネット型)」 : 緒方教諭

成果		課題と改善策
生徒の主体性を引き出す工夫	<ul style="list-style-type: none"> 動画を活用し, 自分のイメージと実際の動きの比較や, 模範生徒との比較を通して自分の課題を明確にさせることができていた。 	<ul style="list-style-type: none"> 模範動画と自身の動画を交互に見るようにするとより分かりやすかった。
対話的な学び合いを実現する工夫	<ul style="list-style-type: none"> 話し合いをする中で, 作戦を立てることができた。 自身の動きだけでなく, チームの様子から気づきを伝え合うこともプレーの一部だという考え方を持たせられていた。 良い声の掛けあいがあり, プレーの中に生徒のつながりが見られた。 	
学びの深まりを実感するための工夫	<ul style="list-style-type: none"> 作戦を実行した後振り返り, 修正させていた。 ⇒ 次回の学習へつながり, 考え実行することの繰り返して学びの深まりが感じられる。 	

